

(1)はじめに

会社を知るためには、経営理念は大変に重要です。株式会社イシイ（イシイ）も含めてブロイラー関連企業の経営理念を、鶏肉生産企業・ブロイラー専門種鶏孵卵企業・養鶏設備販売企業別に取り上げて、ブロイラー業界の社会貢献の取り組みを考えてみたいと思います。経営理念はインターネットで公開されている企業案内情報から入手しました。

(2)ブロイラー関連企業の経営理念

・鶏肉生産企業の経営理念

<株式会社アクシーズ>

アクシーズは我々が日頃口にする、日常生活に必要な食品を取り扱う企業である。当社の製品は、①安心して食べられ、健康に良いものであること、②鮮度が良く、美味しいものであること、③お客様に満足いただける価値を持っていること、④低価格で提供できること、⑤整然とした清潔な工場で作られていること、以上、経営の指針に基づきアクシーズは日々革新を続け社会に貢献する企業であることをここに宣言する。

<株式会社阿部繁考商店>

私たちは安全・安心を第一に考え徹底した品質管理でお客様においしい食品をお届けします。

<株式会社ウエルファムフーズ>

私たちは、公正なる企業活動を通じて、新しい価値を創造し、経済・社会の発展に貢献する企業を目指します。

<株式会社十文字チキンカンパニー>

私たちは人の健康・動物の健康・環境の健康の3つの最高のバランスを目指します。

<株式会社ジャパンファーム>

私たちはお客様と喜びを分かち合い、自然と社会とのつながりを大切に、夢を持って事業の発展に挑み続けます。

<全国農業協同組合連合会>

私たち全農グループは、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。

<日本ハム株式会社>

「食べる喜び」をお届けすることによって皆さまの健やかな暮らしに貢献し、「人輝く、食の未来」の実現を目指します。

<株式会社ニチレイ>

ニチレイグループは、人々の暮らしに本当に役立つ商品やサービスを一所懸命に創り出し、健康でこころの豊かな生活の実現に貢献します。

<プライフーズ株式会社>

「より安全でヘルシーな食材をよりおいしく食卓へ」を経営基本理念とし、美味しく、楽しい「食」の提供を通じて、国民の健康と社会の発展に貢献します。

・ブロイラー専門種鶏孵卵企業の経営理念

<株式会社森孵卵場>

『真心衆通』を基本理念に、お客様満足して頂ける雛を育ててまいります。

<株式会社山形種鶏場>

当社では「従業員の仕事と生活の調和を応援する事」を経営理念の一つとし、全従業員が安心して仕事に取り組み、その能力を十分に発揮できる職場環境の整備に取り組む。

・養鶏設備販売企業の経営理念

<東西産業貿易株式会社>

我が社の経営理念は、「信頼、活力、魅力ある企業で農業、畜産、食品を通じて人類、社会の進歩発展に貢献する」であります。

<株式会社ハイテム>

お客様満足、当社関係先との安易な妥協を排した共存共栄を通じ、全従業員の物心両面の幸福を追求する。同時に、社会の進歩発展に貢献する。

(3)イシイの経営理念

イシイの経営理念についてお話をします。1969年に主産地に種鶏孵卵事業を展開する目的で設立したイシイは、2012年まで経営理念「豊かな食生活に奉仕を」を持つ1959年創業の石井養鶏農業協同組合の子会社でした。二十年ほど前から、イシイの経営理念は「環境保全と動物福祉を考え、関係する人々と動物の生活をより良くする」に変わっていきました。イシイの経営理念のきっかけは人畜共通感染症の予防を出来ればとの思いからでした。人畜共通感染症は家畜の病気が人の病気にもなる感染症であり、新型インフルエンザに繋がる恐れもあります。ブロイラー業界ではHPAIを防疫することは、鳥由来の新型インフルエンザを基本的に防ぐこととなります。こうして、健康に育つ鶏に役に立つ仕事をしよう、同時に鶏の世話をする働く人に役に立つ仕事をしようと、イシイは「環境保全と動物福祉を考え、関係する人々と動物の生活をより良くする」の経営理念を持って、鶏の生産と生産設備の仕事を行っています。

生産事業と生産設備事業の両方の仕事を行う為に、イシイは過去30年間、基幹事業に新卒者採用を進めてきました。生産事業では、国内で3社がブロイラー原種農場を持っていますが、イシイは3社のうちの1社です。また、イシイは肉用鶏の雛とブロイラー生産だけでなく、医薬用の人用インフルエンザワクチン向け発育鶏卵の生産も行っています。さらに、イシイのECO部は、ペット市場に取り扱い商品を持っており、1998年より海外メーカーと代理店契約を結び、東京営業所と大阪営業所にてオーガニックペットフードの販売を、続けています。

経営理念を少し詳しく説明しますと、「環境保全」は働く人々の職場改善です。鶏は野生動物ではありませんので、365日24時間にわたり関係する人々が鶏の世話をしなければなりません。

だからこそ、働く人々の職場改善が必要なのです。環境保全とは、鶏に従事する人々にとっての職場が、人手不足解消・重労働軽減・快適になるように、顧客・取引業者・養鶏飼育管理者・従業員等の関係する人々の事務所・農場・孵卵工場等の職場環境を改善することです。「働く人々の職場改善」として、イシイは具体的に基幹事業に正社員採用、孵卵場にワクチン卵接種機導入・ロボット導入・シングルタイプ孵卵機選択・大型規模（約月 300 万羽）の新築孵卵場建設準備、農場事務所改善・新設農場購入・新築鶏舎建設・最新鋭農場設備（自動種鶏ワクチン接種機等）試験導入に取り組んでいます。

経営理念の「動物福祉」は国産鶏種の維持と鶏の飼育改善です。健康な鶏を育てるために、国産鶏種の維持と鶏の飼育環境の改善は必要です。「国産鶏種の維持」は、HPAIにより海外鶏種輸入禁止時に、国産鶏種のブロイラー雛供給対応が非常時に可能となります。また、海外ではブロイラーの動物福祉動向は、鶏種の課題として成長の早い品種から成長の遅い品種（例えば地鶏等）に移りつつあります。日本鶏種もいつか明かりが差して、和食鶏として評価される日が来ると思っています。こうした方向性を持って、イシイは独立行政法人家畜改良センター 兵庫牧場と、2000年に国産鶏種「はりま」の増殖事業（原種と種鶏事業）に取り組みを開始しました。2007年に、HPAI 輸入鶏種禁止リスク回避をする為に、「たつの」増殖事業（原種と種鶏事業）も始めて、イシイは合弁会社（株）ニチレイフレッシュファームを（株）ニチレイフレッシュ様と立ち上げて、純和鶏赤鶏を生産始めました。「鶏の飼育改善」として、イシイは国産鶏種の増殖、健康なブロイラー雛の生産、健康なブロイラーの飼育、安全なインフルエンザワクチン用発育鶏卵の生産、孵卵場にワクチン自動卵内接種機リース・養鶏場に鶏舎と飼育器具販売による設備供給・オーガニックペットフード販売等に取り組んでいます。

そして、私たちは、環境保全と動物福祉によって、働く人々が快適な職場で仕事を出来て、鶏が孵卵場と農場で健康に育って、結果として関係する人々と鶏の生活がより良くなるように開発(Development)と改革(Reformation)を進めて、革新(innovation)的な仕事に取り組んでいます。

(4)イシイの設備更新

生産設備の一例をご紹介します。鹿児島県にある 2 つの孵卵場は更新時期にありました。そこで 2017 年に、築 38 年の大浦孵卵場と築 35 年の川辺孵卵場を統合した鹿児島孵卵場を建設しました。当時の大浦孵卵場起工式と現在の鹿児島孵卵場落成式に関する下記の掲載新聞記事をご覧ください。今後も引き続いて、重労働軽減、品質向上、生産性向上につながる良いひなを生産する為に、イシイは旧工場と旧農場を最新鋭工場と最新鋭農場に更新していきます。

も化場へフ供給ヒナ

大浦、笠沙の種鶏卵団地

年内完成 月産60万羽めざす

【加世田】鷹野のフライヤー養鶏団地のヒナ生産をめざす川辺郡大浦、笠沙町の種鶏卵団地に、ここをフ化場が建設されることになり、このほど盛土工事があつた。

同フ化場は昨年一月から月産六十万羽のヒナをうけ、南國フライヤー団地の八〇％供給を目標にしているが、同フ化場の建設で健康な優良ヒナが導入できると、フライヤー養鶏団地は増産し、生産量の増強がフライヤー団地は、生産量を年々七十五万羽、一三〇万羽と増やしている。

約八百羽羽が飼養されている。このほほとんどのヒナは福岡、大分など産卵地から導入され、輸送途中でヒナが死んだり、弱ったり、輸送ロスが大きく、近くに種鶏卵とフ化場をセットしたヒナの生産団地づくりが望まれていた。このため、県産鶏産卵団地の石井養鶏協会は協力を求め、川辺郡大浦町と笠沙町に六十万羽の種鶏卵団地をつくり、同系列のフライヤーが、大浦町鷹野のでんふん工場跡地にフ化場を建設することになった。すでに種鶏卵団地の方は大浦、笠沙町の農家が種鶏を入れた棟を築き、軌道に準じている。

新しいフ化場は、フライヤーの鹿児島工場、よいヒナを先発供給するのがねらい。同町界隈下のでんふん工場跡地四万二千方に、鉄骨断熱複層構造の建て八千四百八十八平方メートルのフ化場、遊歩道、宿舎、検査室、倉庫などをつくり、十萬個の卵が一度にフ化できるフ化機六台をすえる。総事業費は一億五千円、年内に完工、養鶏車々からヒナ生産に入る。勝野実業インシイ鹿児島事業所は「現在南國産卵地に百四十万羽程度供給しているが、このフ化場ができれば六十万羽、八〇万羽の供給になる。丈夫な、よいヒナを生産、供給して養鶏のみなさんに喜んでほしい」と話している。

イシイの新孵卵場完成

来月稼働、年200万羽生産

南さつま



完成したイシイの鹿児島孵卵場。25日、南さつま市大浦町。

フライヤー生産などの「イシイ」(本社・徳島市)が南さつま市

大浦町の旧笠沙高校跡地に建設していた鹿児島孵卵場が完成し25日、落成式があつた。住民ら約80人が出席し、テープカットで祝つた。4月1日から稼働する。

工場はフライヤーの卵をひなにかえす施設で、敷地面積1万2868平方メートル、建築面積5063平方メートル。鉄骨造り平屋建て。投資予定額は13億円で、年間2千万羽の生産を計画

する。新規雇用は10人程度を見込む。神事の後、竹内正博社長(65)は「最新鋭の設備を持つ大型工場で、重労働軽減や品質、生産性の向上などにつながる。良いひなの生産に取り組み」とあいさつした。祝賀会では同市大浦町住民有志による阿波踊りも披露された。

(勝目博之)